



## 愛知県チーム 連覇逃す

第33回東海ブロック会柔道大会  
第11回柔整師杯東海柔道選手権大会  
第4回東海少年柔道形競技会

7月27日(日)大垣市武道館にて、日本柔道整復師会第33回東海ブロック会柔道大会・第11回柔整師杯東海少年柔道選手権大会・第4回東海少年柔道形競技会が開催された。

午前10時30分からの少年大会の開会式では、永田官久大会会長(東海ブロック会会長)が、「けがに気をつけて頑張ってもらいたい。もしけがをしたなら、ここにいる接骨院の先生が治してくれる」と挨拶。選手宣誓のあと、各県の小学4年生から6年生の男女合わせて96名が学年別・男女別のトーナメントで熱戦を繰り広げた。愛知県からは、4月の第23回(公社)愛知県柔道整復師会少年少女柔道大会で入賞した24名が参加。昨年の第10回大会ではどの選手も惜しくも優勝を逃したが、今回は、4年生で男女とも優勝、3位に男子2人と女子1人が入賞。5年生は優勝者こそなかったが、男子2位と3位、女子は3位に2人。6年生では女子は惜しくも入賞を逃したが、男子が優勝し3位に1人入賞した。来年も全学年の活躍に期待したい。

少年大会終了後の形競技会は、静岡・三重・岐阜・愛知の順に1会場のみを使って1組ごとに行われた。6月29日の本会競技会で優勝した半田支部の森 正仁監督率いる石原涼葉さん(取)と内田華帆さん(受)チームが、静岡県チームとともに日整大会に出場する。



午後2時からの会員の大会では、永田会長が「けがのないよう、明日の仕事に差し支えないよう最大限の努力をして戦ってもらいたい」と挨拶。春日井和幸監督率いる愛知県チームが東海ブロックの他三県とのリーグ戦に挑んだ。

前回4年ぶりの優勝を果たした愛知県チームは、大将・野村時丈(六段)、副将・間瀬裕晃(四段)、中堅・下崎貴弘(参段)、次鋒・黒氏 憲(五段)、先鋒・浅井友哉(参段)で臨み、初戦の静岡県には4-0で負けたものの、その後2戦目の三重県には2-2の内容勝ち、3戦目の岐阜県には2-1で勝って準優勝を決めた。



なお、大会優秀選手には戦績2勝1分けの野村選手が選ばれるとともに、東海東部チームのメンバーとして日整大会に出場することになった。

各試合終了後、表彰式までの間に「固の形」の演武が披露された。演武者は、「固の形」で平成24・25年全国柔道形競技会優勝、第4回(イタリア)・第5回(京都)の世界形柔道選手権大会優勝、第6回大会(スペイン)に出場予定の、岐阜県中山智史四段(受)・林 聖治四段(取)で、ふたりの静と動が織りなす素晴らしい演武に会場全体から大きな拍手が送られた。

優勝 静岡(3勝)  
第3位 三重(1勝2敗)

準優勝 愛知(2勝1敗)  
第4位 岐阜(3敗)



### 災害通信訓練に参加

8月17日(日)午前9時より、愛知県赤十字無線奉仕団が実施する災害無線通信訓練に、本会災害無線連絡会から田島正博無線委員長はじめ小林弘治・竹内 康・平岩治郎の4会員が参加した。

会館駐車場に仮設のアンテナ設置と無線機を設置して実施し交信に成功。

## Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
後藤 亮	S59.8.15	熱田	米田柔整	一級	バスケットボール
佐々木紀明	S46.11.7	豊橋	中和医療	初段	トレーニング



後藤 亮会員

息子と一緒に。



佐々木紀明会員

アマフト現役最終戦。長男と一緒にです。



## snapshot

ツバメが我が接骨院で子育てするようになり、今年で7~8年になります。今年も5羽の雛がかえり、親が一生懸命子育て真最中。(小林弘治会員・大曾根 投稿)

## 北区・運動器の機能向上事業(得トク運動教室)実施事業者連絡会

7月25日(金)午後1時30分から3時まで、名古屋市北区役所にて、「運動器の機能向上事業(得トク運動教室)実施事業者連絡会」と題して、実施事業者に対する連絡会が、北区東部・西部いきいき支援センター主催で2年ぶりに行われた。名古屋市健康福祉局高齢福祉部地域ケア推進課地域支援係より2名、いきいき支援センターからは9名、本会会員から4施術所の5名(うち勤務柔整師2名)、介護予防デイサービス4名、フィットネスクラブ1名の合計21名が参加した。

市健康福祉局担当者より、実施期間は1クール4ヶ月以内・最長3クールまでであることや実施時間1時間以上の内容は健康状態チェックや休憩、トイレなどをも含む全ての時間で柔軟に対応して欲しいとのこと、あくまで生活の中に運動を取り入れるきっかけづくりが本事業の目的であること、介護保険の認定時点ではなく申請時点で本事業が打ち切りになること、消せるボールペンでの請求書の記載は不可であること、個人情報保護・管理の徹底などの確認・要望があり、いきいき支援センター側からは北区の得トク運動教室参加者は増加傾向にあることが示された。

最後にセンター側から、来年度以降の区民向けPRイベントの開催という課題や、良好な事業が今後も継続できるようにセンターや実施事業者の意見を反映して欲しいとの名古屋市への要望が出され連絡会が終了した。

(支部代表者 横井達典)



## 昭和区 ハナミズキプロジェクトに7会員が参加

7月26日(土)午後1時30分より、名古屋第二赤十字病院において、第2回多職種連携会 ハナミズキプロジェクトが開催され、昭和区の会員7名とその勤務柔整師ら3名の合わせて10名が参加した。この会合は昭和区医師会が県から委託されて、在宅医療連携拠点推進事業として多職種が連携して実施していく地域包括ケアシステムの構築を図るため開催されている。

会員がケアシステム参加できるよう本会では名古屋市市の基幹4区に働きかけをしており、5月28日、森川会長・長谷川副会長が昭和区の基幹病院である「かわな病院」に出向き、院長ほか介護スタッフと面会し、本会の取組みや参入の依頼をしたことから、今回参加のお誘いを受けて実現した。第1回はすでに開催されており2回目からの参加となったが、ケアマネジャー・医師・歯科衛生士・看護師ら介護に関わる区内あらゆる職種、総勢160名、8名1組20グループのなかに組み入れてもらい、講演を聞き、シンポジウムやグループワークなどに加わった。

今回の参加で昭和区の取組みも緒についたばかりである。参加会員からは、柔道整復師の認知度はまだまだ低く、システムの中で柔道整復師に何ができるのかを、今後このような機会ですっかりアピールしていく必要があるとの報告を受けている。

